リンゴ、コーヒー豆のかす→倉石牛の餌

JAアオレン 来月から製造

県農村工業農業協同組合連合会（JAアオレン、弘前市）が4月28日、JAアオレンの小笠原康彦代表理事会長らが弘前市役所を訪れ、桜田宏市長に報告した。

「リンゴかすと、市内コンビニエンスストアから出たコーヒー豆のかすをブレンドした飼料製造に乗り出す。飼料は本県のブランド和牛「あおもり倉石牛」の餌にする。2021年から同様の飼料製造を手がけていたが、コーヒー豆のかすは県外から購入していた。」

コーヒー豆のかすは、市内のファミリーマート10店舗からJAアオレンが購入する。リンゴとコーヒー豆のかすは同社で乾燥処理する。処理能力は年500トン。リンゴかすは同社で年5千トン、コーヒー豆のかすは10店舗で月400～600キロ出ており、活用策が課題となっていた。

事業にはJA全農北日本くみあい飼料（本社仙台市）が協力。JAアオレンから乾燥後のリンゴとコーヒー豆のかすを購入し、八戸の工場でトウモロコシや大豆と混ぜて飼料にする。

小笠原会長は「リンゴをジュースに加工すると3割が搾りかすになる。活用できれば、その分生産者からリンゴを高く買い取ることができ、本県リンゴ産業を下支えすることにつながる」と語った。北日本くみあい飼料養牛課の鈴木亮課長は「青森といえばリンゴ。リンゴを餌にしたブランド牛は、旅行客や首都圏の消費者に訴求力があると思う」と話した。（工藤貴光）

リンゴとコーヒー豆の搾りかすを配合したあおもり倉石牛用の飼料